

氏名	植 杉 成 一 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3310号
学位授与の日付	平成11年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Seroepidemiologic Studies of Hepatitis C Virus Infection in a Population of Okayama Prefecture Screened for Liver Disease (岡山県における肝集検受診者を対象としたC型肝炎ウイルス感染の血清疫学的研究)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 青山 英康 教授 山田 雅夫

学位論文内容の要旨

C型肝炎ウイルス (HCV) の感染経路・様式を疫学的に明らかにする目的で、かつて流行性肝炎が蔓延し精力的に調査された岡山県において、ほぼ全域をカバーする26地区で肝疾患検診を受けた住民7905人の中から、肝機能異常、輸血歴、肝疾患既往歴、肝疾患家族歴を有する1398人を抽出して対象とし、HCV抗体をはじめとする各種肝炎ウイルスマーカーを測定した。ロジスティック回帰分析の結果、HCV抗体の陽性率は輸血歴およびHBV感染の既往を示すHBc抗体の陽性率に有意な関連がみられた。また地区別にみると、HCV抗体の陽性率はHBc抗体、HAV抗体ではみられないばらつきを示した。この結果を1953から1955年にかけて岡山県で小坂らが調査した結果と経時的に対比してみると、当時流行した肝炎の慢性化例の地区別の陽性率と有意な正の相関がみられた。以上よりHCVには独自の感染経路・様式があることを示唆する興味ある知見を得た。

論文審査結果の要旨

本研究は、C型肝炎ウイルス (HCV) の感染経路・様式を疫学的に明らかにする目的で、かつて流行性肝炎が蔓延し精力的に調査された岡山県において、ほぼ全域をカバーする26地区で肝疾患検診を受けた住民7905人の中から、肝機能異常、輸血歴、肝疾患既往歴、肝疾患家族歴を有する1398人を抽出して対象とし、HCV抗体をはじめとする各種肝炎ウイルスマーカーを測定したものである。その結果、地区別の検討では、HCV抗体の陽性率はHBc抗体、HAV抗体ではみられないばらつきを示したが、過去の流行地では、現在も陽性率が高いなど興味ある成績を得ている。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。